

沖縄らしいSDGsで より良い未来へ

沖縄の未来のためにできることって
なんだろう？ 答えはいろいろあり
ますが、一人ひとりの小さな行動も
すべて未来へつながります。

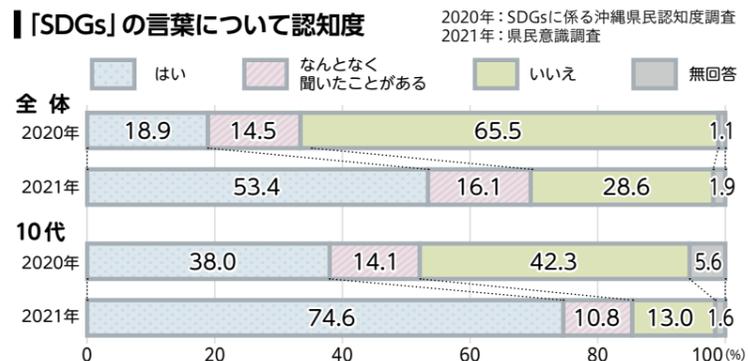


今号の表紙
美しく青い海に沖縄が誇る世界遺産、三線を弾くおじいさんとその音色に耳を傾ける孫。未来に残したい風景をイラストで表現しました。

SDGsって、県民はどのくらい知っているの？

県民のうち69.5%の人がSDGsという言葉を知っている

あらゆる人々が協力し、世界の未来のためにがんばろうと国連で決めた2030年までの17の目標「SDGs」。2020年8月の調査では、県民全体の認知度は33.4%でしたが、企業や学校での積極的な取り組みもあり、2021年8月の調査では69.5%にアップ。特に、小中高校では授業でSDGsの目的や取り組みについて学習しているため、10代の認知度は高くなっています。子どもたちは2030年には大人になって社会で活躍しているはず。その未来は、今と深くつながっています。SDGsに関わっていくことで、2030年の世界はより良いものになっていくでしょう。



県民が取り組んでいるSDGsってどんなものがあるの？

ごみのポイ捨てをしない、エコバッグを使うなど、身近な行動からスタート



現在、多くの県民が実践しているのが「ごみのポイ捨てをしない」「エコバッグの使用」。この2つの行動は、目標14の「海の豊かさを守ろう」につながります。

県内の企業はどんなことに取り組んでいるの？

商品開発やイベントなどを通してSDGsの達成に貢献する活動を実践中！



おきなわSDGsパートナー 取り組み紹介

提供された食品を無償で届けるフードバンク「NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄」
浦添にある「ピリオン珈琲」では、フェアトレードの豆を焙煎・販売。



浦添にある「ピリオン珈琲」では、フェアトレードの豆を焙煎・販売。

県では、2021年9月に「沖縄県SDGs実施指針」を策定し、SDGsの普及啓発に取り組んでいます。SDGsの達成に向けた取り組みを行うとともに、県民に向けたSDGsの普及活動を行う企業・団体を「おきなわSDGsパートナー」として登録しています。

2022年2月現在、407の企業や団体が登録し、社員一人でもできることから、会社全体で実施していることまで、いろいろな活動を行っています。秀逸なアイデアから生まれた商品や長年にわたって取り組んでいることなど、あらゆる立場の人が行動を起こして、SDGs達成に向けて頑張っています！

光建設株式会社

20年以上前から「親子木工教室」を開催。工事現場の余った木材を再利用し、参加料は社会福祉協議会へ全額寄付している。



一般社団法人 琉球美容研究所

沖縄県で唯一の「美」に特化した研究・普及活動を実施。県産薬草農家への還元サイクルとして、琉球茶を開発・販売。



ピュアキャッスル株式会社

豆の仕入れから焙煎までSDGsを意識したコーヒーやスイーツを販売。最新鋭の焙煎機でエネルギーを効率化し、CO2排出を削減。



私にもできる



できることからコツコツと

一人ひとりの行動が重要だとわかっていても、「自分に何が出来るの？」という人も多いはず。気軽に始められるSDGsの取り組みをいくつかご紹介します。

- 節電・節水を心がける
- マイバッグやマイボトルを活用する
- フードロス減らす
- 再利用・リサイクルを積極的に行う



どれも簡単だと思いませんか？ まずは、ひとつでもいいので、毎日の暮らしの中で意識して取り組んでみましょう。小さな行動がSDGsの目標達成に近づきます。